



友釣り解禁控え稚アユ放流！

西濃水産漁協 大垣の揖斐川に300キロ

揖斐川右岸34.6K付近（名神揖斐川橋地点）

- 6月1日の鮎の友釣り解禁を前に、西濃水産漁業協同組合は5月30日（金）、大垣市今福町の揖斐川で稚アユ約300キロを今年初めて放流しました。稚アユは穂積市内の水産業者が自池で人工孵化させた体長15cm前後のもの。組合員がバケツによる放流を行い、その後、トラックに積んだタンクからホースを通して約1万匹が勢いよく放されると、稚アユは群れになって元気よく泳ぎだして行きました。
- 吉田組合長は、「先日の雨で川の水量が増え、天然アユが多く遡上していることを確認しているが、近年、アユなどの川魚を餌とするカワウの食害があり頭を悩ませている。今回、放流したアユも、カワウから逃れ、順調に生育してくれば」と祈る想いで放流を見守りました。
- 今後、同漁協では、揖斐川支流の相川や杭瀬川で、あと3回、計1200キロを放流し、来年は、子供たちの放流体験など市民参加型のイベントを企画していくという。



ホースを通して揖斐川に放流された稚アユが、群れをなして元気よく泳ぎだした様子